

1

ミサワホーム株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ全体で温室効果ガス排出削減に対する意識や活動を高める。 ● サプライチェーン全体を把握することで、環境負荷の全体像を意識した取り組みができる判断。 ● 地球環境保全の為に、サプライチェーン全体における取り組みがますます重要になり、社会的な要求になってきている。
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 商品開発や技術開発を行う上で、排出量の削減対策や効果に活用。 ● ホームページやCSRレポートでの情報開示及び各種アンケートへの対応。
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーン全体及びカテゴリごとの把握ができることにより、グループ全体としての目標が明確化。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 社内の関連部門よりデータを収集し、コーポレートコミュニケーション課が算定。 ● 開発、設計、営業活動に基づく建築物の使用時のエネルギー、工場における部材の生産時のエネルギー、施行現場でのエネルギー、輸送時のエネルギー、廃棄物、労務関連データ等を各部門が収集。

2

ミサワホーム株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none"> ● 排出量の算定から大きなウエイトを占める「購入した製品・サービス」及び「販売した製品の使用」を考慮した、商品及び部品等の開発を推進。 ● ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー住宅)の推進。 ● 省エネルギー住宅の供給推進(ハード面)と同時に、ご入居者様への住まい方(ソフト面)についても提案。 ● 省部材設計及び工業化施工技術の更なる推進。 ● サプライヤーと協働して、CO₂排出量の削減活動の企画提案を推進。
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ● サンプル集計から実データ集計に移行することによる作業負荷の増加を軽減するため、自動化の構築。 ● 集計範囲の見直し及び拡大による目標値の設定。
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「購入した製品・サービス」の再生有機系建材部材「M-WOOD2」として、製造時の消費されるエネルギー量を削減。

3

ミサワホーム株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2018年4月～2019年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材の購入量	● 調達量当り原単位(※1)
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 資本財の価格当り原単位(※2)
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 電気等のエネルギー使用量	● エネルギー量当り原単位(※2)
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 荷主分の輸送に係る燃料使用量	● 燃料当り原単位(※2)
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● 廃棄物種類別原単位(※2)
カテゴリ6「出張」	● 従業員数	● 従業員当りの原単位(※2)
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員数	● 従業員数・勤務日数当り排出原単位(※2)
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● スコープ1, 2で計上済	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 該当なし	
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 居住時のエネルギー使用量(30年間)	● 年間CO ₂ 排出量(自社計算)
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 廃棄物排出量×年度棟数	● 廃棄物原単位(※2)
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● エネルギー消費量×エネルギー種別の排出量	● エネルギー使用量当りの原単位(※2)
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	
カテゴリ15「投資」	● 基本ガイドラインで規定される適用事業者に該当しないため除外	
「その他」	● オプションカテゴリのため除外	

※1: 日本建築学会LCA指針(2013. 2)

※2: サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver2.6)

4

ミサワホーム株式会社

サプライチェーン排出量算定結果

